



デザイン性に優れた「カラービット」は、見るだけでも華やかだ

「カラフルなバーコード」で ヒト・モノ管理に革命を起こす

自動認識コード「カラービット」を開発したベンチャー。
入退室・在庫管理などの画期的なソリューションを提供する

トを読み取るソフトウェアのライセンス販売を中心に手掛けてきたが、転機が訪れたのは、一五年のこと。パナソニックが提供する、IoT機器を管理して映像からデータを生成、分析、活用するためのプラットフォーム「Neureka」に関わることになったのだ。

「このプラットフォームとクラウドを使うことにより、われわれのような小さな企業でも革新的なサービスを提供できるようになったのです。そこで、Neurekaをキーデバイス

にして、『彩色兼備』と呼ぶ独自のソリューションを、一八年ごろから本格的に提供しています」

ソリューションは現在三種類で、その一つがIoTカメラとカラービットによる「入退室管理」だ。個人を識別するカラービットIDを画像処理により認識し、取得したID番号や入退室情報をクラウドサーバへ蓄積。個人やグループの入退室履歴・滞在時間などを表示・解析する。ドアと連動した開閉制御も可能だ。非

接触型なので、例えば社員証などに付けたまま、あるいは制服などに付けたカラービットをカメラが読み取り、入退場ができる。また正対した

画像が保存できるので、なりすまし不正の防止にも役立つ。セキュリティ向上、勤怠システムと連動させての労働時間管理、さらには働き方改革などにもつながられるわけだ。

二つ目が「位置管理」。複数のIoTカメラと組み合わせ、広い工場や倉庫などを常時監視するものだ。電波を使わないので、電波法を気にせず設置できる上、周辺環境の影響も受けにくく、移動するカート・台車や人の動きを誤差五センチの精度で位置把握できる。



代表取締役
水野廉郎氏

そして三つ目が、「モノ管理」だ。専用の端末不要で、iPhoneを使ってデータを読み取り、在庫などを一括管理。複数のタグをまとめて素早く読み取ることもできる。

「今後は少子高齢化・労働力不足の時代を見据えて、自動化や生産性向上に貢献できる新たなソリューションの提供を目指します」

人

間を介さずにデータを読み取り、内容を認識する自動認識コード。バーコードやQRコードなどは代表例だが、近年注目を集めているのが、「colorbit（カラービット）」だ。色の並び順を画像処理することによりIDに変換。「色の変化」をデータとして読み取るユニークな技術である。大量のコード

を同時に読める、検索・位置確認ができる、形状デザインが自由、布などに付けられる等々、メリットは多い。「当社はこのカラービットの技術を独自に開発・保有しており、これ世の中に生かしていきたいと、二〇〇六年に立ち上げた企業です」

ビーコア代表取締役の水野廉郎氏は、こう語る。当初は、カラービッ